龍谷大学アジア仏教文化研究センター　ワーキングペーパー
No.19-04（2020 年 3 月 31 日）
公募研究成果論文

三一権実論争と三論宗

―京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』の解説並びに翻刻―

小野嶋祥雄

（2018 年度 BARC 公募研究員）

目次

はじめに
１．京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』の概要
２．『仏智常住記』の内容的特色
まとめ
京都大学附属図書館『仏智常住記』一冊　翻刻

【キーワード】
三一権実論争　三論宗　隆海　『仏智常住記』　報仏常・無常

はじめに

唐初期の仏教界では、一分不成仏説「三乗真実・五姓各別」と一切皆成説「一乗真実・悉有仏性」、そのどちらの説が真実であるのかをめぐって論争が行われた。この論争を三一権実論争という。この三一権実論争は中国での論争を受けて日本においても展開されたが、日本においては法相宗の徳一（？―八四二？）と天台宗の最澄（七六七―八二二）との間に交わされた論争や、応和の宗論（九六三）などの法相宗と天台宗の論争がよく知られているところである。近年、日本における三一権実論争については三論宗と法相宗との間の論争に注目する研究がなされているが、活字化された三論宗文献には限りがあるため、逸文も含めた新出資料の検出が望まれる状況となっている。

本稿にて解説と翻刻を試みる『仏智常住記』一巻は、『国書総目録』第七巻に「仏智常住記　ぶっちじょうじゅうき　別　報仏常私記　類　仏教　著　隆海　写　京大」（一一〇頁）と紹介されるている通り、平安時代に元興寺で活動した三論宗の隆海（八一五―八八六）の著作であり、三一権実論争の中で一つの論点となっていた報身仏の常・無常について論じられた文献である。著者の隆海については、『三代実録』巻四九（『新訂増補　国史大系』四・六一四―六一五頁）や『本朝高僧伝』巻七（『日仏全』・一三三頁）に伝記があり、願暁（？―八七四）に三論を、仲継（？―八四三）に法相を、真如（七九九―八六五）に真言を学び、仁和元（八八五）年に律師となり、主に元興寺にて活動したとされる。また、隆海の著作には『仏智常住記』の他にも、『二諦義』一巻、『方言義』一巻、『四諦義』二巻、『二智義』二巻、『二空比量義』二巻、『因明九句義』二巻があったとされるが、いずれの著作も現存していない。

このたび京都大学付属図書館に所蔵されている『仏智常住記』を調査をする機会を得たが、後述の通り本書の由来にはやや複雑な経緯が見られるが、本文もよく整っており、内容的にも平安時代の三論宗の三一権実論争に対する見解を伝える重要文献であることが明らかとなった。そこで本稿では、その概要を解説するとともに翻刻を行うことで、三論宗の三一権実論争への関わ

りの解明に資したい。

一、京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』の概要

京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』（請求記号：藏／２４／フ／１１）は、「天文五年」の書写奥書を有する一冊の線装本である。全十七丁からなり、半丁の行数は十行、一行に約二十字程度が記されている。

本書の十六丁裏に記載されている奥書を示せば、以下の通りである。

写本云
天文四年〈乙未〉三月上旬比勧他筆寫之移點加
校一　南都東大寺観音院末學英訓六十
天文五年〈丙申〉五月勧學講談義之次重而加校
法印英訓

この奥書に記される「南都東大寺観音院末学英訓」とは、三論宗関連文献の奥書によく見られる人物で、珍海の『大乗玄門答』の奥書などにもその名が見られる。右の奥書の記述通りに解すれば、京都大学付属図書館本はその英訓の所持本ということになるが、結論を先取りして述べれば、本書は天文五年に英訓が校合を加えた写本の転写本であると考えられる。

というのも、本書の一丁表の上部には「京都帝國大學圖書之印」の蔵書印と「１３６６２９／大正３．２．５」の受入印が、下部には「株式會社藏經書院印」の印が捺されている。このことから、本書は大正三年に蔵経書院から寄贈された蔵経書院本の

中の一冊であることが分かる。また本書にはくずし字で記された文字に朱筆で×印を付し、そのくずし字で記された文字の左右どちらかに文字が起こされている事例がいくつか見られるが、これは古写本を転写して新たに作成した入稿原稿であることを示すものであろう。なお、転写の際に原本となった英訓所持本の所在については不明であり、今後の調査に俟たなければならない。

ただ先に述べた通り、京都大学附属図書館所蔵の『仏智常住記』の本文は整っており、そのことは後世の三論宗文献に引用される『仏智常住記』の逸文との比較からも明らかである。京都大学附属図書館本と珍海（一〇九一―一一五二）の『三論玄疏文義要』巻八の『仏智常住記』の引用文を対照表にて示せば以下の通りである。

京都大学附属図書館所蔵『仏智常住記』（一丁表）	珍海『三論玄疏文義要』巻八（大正七十・三三九下上）
佛ニ具ニ三身ヲ一。所謂ル、化身應身法身ナリ。理法身ノ佛ハ無爲常住ナリ、應化ノ身ノ佛ハ生滅無常ト云ヿ二宗共許セリ。本ヨリ非レ所ニ諍。但シ於ニ智法身ニ相ー諍「既ニ久シ。有所得ノ宗ハ執ニ有為無常一、無所得ノ家ハ立ニ無為常住一ト。今ハ依テ二無相宗一ニ祛ニ彼ノ生滅ノ執ヲ一焉。	隆海律師『仏智常住記』云、「仏具三身。所謂、化身応身法身。理法身仏無為常住、応化身仏生滅無常二宗共許。本非所諍。但於智法身相諍既久。有所得宗執有為無常、無所得家立無為常住。今依無相宗祛彼生滅執焉」〈文〉。

以上のように、京都大学附属図書館所蔵『仏智常住記』は、古写本からの転写本という由来を持つ本ではあるものの、その本文は整っており、内容的にも平安時代の三一権実論争に関する三論宗の見解を記す重要な典籍であるといえる。

二、『仏智常住記』の内容的特色

京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』の内容は、表題・首題の「仏智常住記」と尾題の「報仏常私記」からも明らかな通り、

三一権実論争の中で一つの論点となっていた、報身仏の常・無常について私記の形式で著されたものである。本書は内容的に大きく二つに分かれており、一丁表から十六丁裏までが「仏智常住記」、十七丁表には「元興寺隆海律師宗図」として中国の三論学派の吉蔵（五四九―六二三）から隆海に至るまでの系譜が記されている。

なお、「仏智常住記」は八七の問答から構成されており、一丁表から十二丁裏までが報身仏の常・無常、十三丁表から十六丁裏までが真如所縁々種子に関する議論となっている。三論宗では元興寺智光（七〇九―七八〇？）の『浄名玄論略述』巻五本（『日蔵』巻二五・二五二頁）や、西大寺玄叡（？―八一〇）の『大乗三論大義鈔』巻三「常無常諍論第二」・巻三「種子爾不爾諍論第三」などに同様の議論が見られるため、これらを詳細に比較していくことが今後の検討課題の一つに挙げられる。

現段階で筆者が気づいた『仏智常住記』の内容的な特色としては、『仏智常住記』は本書に先行する中国・日本の三一権実論争に関係する文献を名称を挙げて引用することはないが、唐初期の三一権実論争の中で一切皆成の立場から著された法宝（六二七頃―七〇六～七一〇？）の『一乗仏性究竟論』六巻を参照している箇所が認められ、こうした参照の仕方は智光や玄叡にも通じるものである。『仏智常住記』の該当箇所を示せば、以下の通りである。

問。若无為ノ常法ヨリ生セ常住ノ佛果ヲ一者、何故涅槃経ノ中ニ佛語テ外道ニ一云ヘルヤ汝カ因ハ是レ常ナリ、果ハ是無常ナリ、我カ因ハ無常ナリ、果ハ是レ常上ナリト耶。

答。因ニ有二遠近一。約シテモ果亦一尒ナリ。外道ハ唯シ有テ二常ノ因一ノミ、无二其ノ常ノ果一。佛法ハ遠因ハ常ナリ、近因ハ無常ナリ。遠果ハ常ナリ、近果ハ无常ナリ。彼ノ涅槃経ノ意ハ以テ二近因一對ニ遠果一ニ云フ二我ノ因ハ无常ナリ果ハ是常ナリト一。今ハ以テ二遠因一對ニ遠果一ニ云三无為ノ常法生ス二常住佛果ヲ一。故不ニ相違一。

（十四丁表）

また、参照元となる法宝の『一乗仏性究竟論』巻四「破法爾五性章第八」は、次の通りである。

問。若常法生無常法者、何故涅槃経中仏語外道云、汝因是常、果是無常、我因無常、果是常耶。

答。因有遠因近因。果有遠果近果。外道唯有常因、無其常果。仏法遠因是常、近因無常、遠果是常、近果無常。若遠因対近果、因常果無常。如応得因与発心加行為因。若近因対遠果、因無常果常。如発心加行与円果為因。若近因対近果、因果倶無常。如発心与加行為因。若遠因対遠果、因果倶是常。如応得因与円果為因。仏将近因対遠果、故言我因是無常、果是常也。

（302-310）[1]

傍線部の『涅槃経』の引用は、慧厳訳『涅槃経』巻三五に「婆羅門。如汝法中因常果無常。然我法中因雖無常果是常者有何等過。」（大正十二・八四〇下）とあることから、趣意による引用であることが分かる。その趣意の引用が一致するということは、『仏智常住記』が『究竟論』を参照した結果に基づくものであることを意味する。

またもう一点の特色としては、『仏智常住記』と玄叡の『大乗三論大義鈔』の記述が相当に似ていることが挙げられる。これは同じ三論宗の僧侶であることから自然なことではあるが、隆海は元興寺の系統に属し、玄叡は西大寺（玄叡の師の安澄は大安寺の三論宗僧侶であることから大安寺の系統とも言える）の系統に属することから、両系統の教学的な一致・相違ということも問題となるであろう。両書は引用経論においても類似が見られるので、これらの比較を今後の検討課題としておきたい。

まとめ

以上、京都大学付属図書館所蔵『仏智常住記』について、その概要と内容的特色について述べてきた。

本書は、英訓所持の天文五年写本を転写し、新たに入稿原稿として作成した蔵経書院本の一冊であるが、珍海などの後世の引

用からも明らかな通り、その本文は整ったものである。また内容的にも、平安時代の三一権実論争に関する三論宗の見解を示すものとなっており、同様の議論が記されている智光の『浄名玄論略述』や玄叡の『大乗三論大義鈔』との比較を通じた研究が可能である。三論宗に関する文献については、活字化された文献には限りがあるため、今後も新資料の発見と翻刻が必要となってくるであろうが、本稿の京都大学付属図書館所蔵『仏智常住記』の翻刻もその一助となれば幸いである。

【付記】京都大学附属図書館本の閲覧・複写・翻刻に際しては、京都大学附属図書館様より多大な御厚情を賜りました。記して衷心より感謝申し上げます。また、京都大学付属図書館所蔵の蔵経書院本に関する書誌的情報について、龍谷大学非常勤講師の冨島信海氏より御教示を賜りました。冨島氏の学恩に深く感謝いたします。

脚注

1　『究竟論』巻四の本文は淺田正博「法宝撰『一乗仏性究竟論』巻第四・五の両巻について」（『仏教文化研究所紀要』二五号、一九八六年）の翻刻文にしたがい、その行番号を示す。

京都大学附属図書館『仏智常住記』一冊　翻刻

【凡例】

一、本翻刻は京都大学附属図書館蔵『仏智常住記』一冊の全翻刻である。

二、翻字は原態通りを原則としたが、略字（菩薩）については開いて表記した。

三、訓点については、原本に付されている通りの表記を心がけたが、合字の「シテ」など一部に開いて表記した。

四、各丁数は（　）で括って示し、行取りは原本に準じて行頭に行数を記した。また、本文中の割注については〈　〉で括って表記した。

五、補記や訂記については本文に反映して翻刻した。

六、文脈上から誤写や脱字が想定される場合は、その旨を註記した。

【翻刻】

（一丁表）

01 佛智常住記　　隆海記

02 佛ニ具ニ三身ヲ一所謂ル化身應身法身ナリ理法身ノ佛ハ無爲常住ナリ

03 應化ノ身ノ佛ハ生滅無常ト云フ一ニ宗共許セリ本ヨリ非レ所ニ諍但シ於ニ

智法

04 身一相ー諍「既ニ久シ有所得ノ宗ハ執ニ有為無常ト一無所得ノ家ハ立ニ

無

05 為常住ト一今ハ依テ二無相宗ニ一祛ニ彼ノ生滅ノ執ヲ一焉問報佛ハ爲レ常為ニ

06 無常一耶答第一義ノ故ニハ非ニ二常無常ニ一對治門ノ故ニハ通ニ二常無常ニ一

07 問何ー以カ得レ知レ通ニ二ストト常無常ニ一答梁攝論ニ云無常有ニ二種一一ニハ

08 者本無今有已有還無ノ々常ニ二ニハ者本無今有已有不

09 無ノ々常〈云ヽ〉今ハ據ニ二後義一ニ云レ通ニ二常無常ニ一問ニ二種ノ無常ノ

差別

10 如何ソヤ答初ノハ因ノ無常後ノハ果ノ無常問云ー何名テ為ニ二因果ノ無

常ト一

（一丁裏）

01 答因ノ無常ト者本ヨリ無六度萬行一今始而有ナリ佛果ノ起ル時ニ還テ

02 無ナルヲ名ニ二因ノ無常ト一果ノ無常ト者本ト無ニ二佛果一今始而有ナリ一ー

證以ー

03 後更ニ亦不レ失云ニ果ノ無常ト一問何ヲ以テ二本無今有已有不無ノ
04 々常ヲ一云レ通ス二常無常ニ一答以ハ本ヨリ無ニ佛果一今始テ起邉ヲ無常ナリ
以ハ下
05 一證已後更ニ不レ失偏ヲ上常ナリ問本ト無ニ佛果一今始テ起ハ者生スル
者ノハ
06 必滅ス何云ヤ二一ヒ得テ更亦不ト一レ失答生者必滅ト者據ニ世間ノ法ニ一
07 佛智ハ是出世ノ法カ故ニ不レ預ニ生者必滅ニハ一問何以生者必滅ハ
08 者據ルヤ二世間ノ法ニ一答涅槃経ノ第二純陀品ニ佛為ニ純陀一而説
09 レ偈ヲ言一切諸世間生者皆帰死〈云ヶ〉故知レ尓問有ニ三種
10 世間一謂ク國土世間衆生世間智正覺世間ナリ既ニ云ニ一切
（二丁表）
01 諸世間生者皆帰死ト一佛果豈ニ非レヤ帰レ死ニ答實ニ雖レ有ニ三種ノ
02 世間一彼経文ノ意佛智ヲハ不レ稱ニ一切世間ト一ハ也問何以カ知ルヤ佛
ヲ
03 非スト一レ稱ニ二ハ世間ト一答即次文云衆苦ノ輪ハ無際一流轉無休息スルコト一三
04 界ハ皆無常ナリ諸有ハ悉非レ樂〈乃至〉我ハ度シテ有ノ彼岸ヲ一出ニ過
一切ノ苦ヲ一
05 是故於レ今者唯受ニ上妙樂一〈云ヶ〉故知佛智ヲ非レ稱ニ二ハ世間ト一
也
06 問若尓上文ニ佛告純陀ニ一云不レ應ニ三諸佛久住ニ於世一汝今
07 当レ観ニ諸佛境界悉皆無常一〈云ヶ〉云何會通セン又佛ハ不トイハレ
関一
08 切諸世間生者皆帰死一ニ者釋迦如来ハ不レ入ニ涅槃一ニ耶答
09 諸佛ノ境界ハ悉皆無常ト者約ニ化身一言非レ據ニ法身一又化身ハ
10 是隨世間身カ故ニ示ス二入涅槃ヲ一耳智法身ノ佛ハ非ニ隨世間身一
（二丁裏）
01 不レ関ニ生者帰死一問雖レ非ニ隨世間身一ニ猶開[1]ルヤ二智正覺世間一ニハ
02 答雖レ開[2]ニ智正覺世間ニ一不レ開[3]ニ一切諸世間生者皆皈死
03 之言ニハ一也問若尓ハ今一得不失ノ故ニ常トイハ、者三種ノ常ノ中ニハ是
何ノ
04 常ソ耶答是凝然常ナリ問何以知レ尓答文證甚多シ且ク仁王
05 経ニ明ニ寂滅忍ノ中下忍一〈云〉一轉妙覺常湛然〈云ヶ〉又
明ニ上
06 忍一〈云〉超度世諦第一義諦之外為第十一地薩云若
07 覺非有非無湛然清浄常住不変同真際等法性〈云ヶ〉
08 問此皆説レ理ヲ非レ説ニハ於智一云何為セン證答五忍ハ皆説ナリ智之
09 階級一ヲ何言レ説ト理ヲ又薩云若覺ト者一切智ノ梵語ナリ何言レ非
10 レ智ニ加ニ之既ニ云ニ同真際等法性一ト豈ニ理等カヲン理ト哉故是正ク
説ニ
（三丁表）

智ヲ常湛然ト一也問假使ヒ説ト二モ智ノ湛然常住ヲ一是攝相歸性シテ説ク
非ニ二正ク説ニハ一レ智答若シ攝相帰性シテ説ニ二常湛然ト一者因智ヲ皆應レ説
レ常ト云何カ果智ヲノミ偏ニ説ン二常住ト一故ニ非レ難ニ問彼ハ取テ二果智ノ親
ク證レ性ヲ
義ヲ一云ニ二常湛然ト一因ノ智ハ踈故不レ云レ尒也答攝相歸性スル時ハ有ラン
何ノ
親踈カ一故此亦非レ通也問雖レ有ニ二此通一不レ成ニ二明證一ト若シ有リヤ二分
明ニ二圓鏡等ノ四智常住凝然之文一答亦有ニ二明文一大佛頂
経第四巻ニ云如果位ノ中ノ菩提ト涅槃ト真如ト佛性ト菴摩羅
識ト空如来藏ト大円鏡智ト是七種ノ名称ハ謂ク雖別清浄円
満シテ躰性堅凝ナルヿ如ニ二金剛王ノ常住ニシテ不カ一レ壊〈云ゝ〉問佛
智常住ナリトイハヽ者
何ッ涅槃経ニ云ヤ下常法ハ無レ知猶如ニ二虚空ノ一如来ハ有レ知是故非ト上
（三丁裏）
レ常ニ答此ハ拠ニ二化身一ニ不レ約ニ二法身一問何以カ知ニ二ルトハ約ニ二スト化身一ニ言
フヤ答即
次文云虚空无ニ二父母一如来有ニ二父母一是故無常云故知
レ尒智法身ノ佛モ非レ無ニ二ハ父母一何ッ以云ヲ有ニ二ト父母一知ニ二ルヤ化身一ト
耶答
何處ニカ云ニ三智法身ニ有ニ二トハ父母一問維摩経云智度ハ菩薩ノ母ナリ方
便ヲ以テ為スレ父ト一切ノ衆ノ導師ハ無レ不ニ二ト云ヿ由レ是生一〈云ゝ〉般
若経等亦
應レ然答彼経等意尒耳涅槃経ノ文ハ正ク據ニ二化身一ニ不レ約ニ二法
身ニ問何ヲ以カ定テ知ル下據ニ二化身一説ト上ハ答既ニ次ノ文ニ云虚空ハ常カ
故ニ无
レ有ニ二姓氏一如来有レ性々ハ瞿曇氏ナリ是故ニ無常ナリ虚空ハ常カ故ニ
无
レ有ニ二方所一如来ハ出世シテ東天竺ノ地一住ニ二舍婆提或王舍城一是
故ニ無常ナリ〈云ゝ〉何言ハン二法身ヲ一問尒ハ涅槃経ニハ何ノ處ニカ云フヤ二
報佛如来ハ
（四丁表）
無為常住一トハ答第二巻ノ純陀品云文殊師利若有テ善男
子一欲ハヽ護ニ二ント正法ヲ一勿レ説下如来ハ同ニ二於諸行一ニ不上レ同ニ二諸行一ニ唯
當自
責一我今愚癡ニシテ未レ有ニ二恵眼一如来ノ正法ハ不可思議ナリ是ノ故ニ
不
レ應三盡説ニ二如来ハ定テ是有為ナリ定テ是無為一ナリトハ若正見者ノハ應レ
説ニ二如
来ハ定テ是无為一ナリト〈乃至〉善男子護法ノ菩薩モ亦應レ如レ是寧
捨三トモ身

06 命ヲ不レシテ説三如来ハ同二於有為一ニ當ニベシレ言三如来ハ同スト二於無為一
〈乃至〉云何
07 護ルル法ヲ所謂説テ言ヘリ二如来ハ同二於無為一ニ〈乃至〉若善男子有二
慚愧一
08 者ハ應下レ不上レ観三佛ハ同ト二於諸行一ニ文殊師利外道ノ邪見可レ説三
如
09 来ハ同ト二於有為一ニ持戒比丘ハ不レ應下如ク是於ニ如来ノ所ト一ニ生中有
為
10 想ヲ若言ハヽ二如来ハ是有為ト一者即是妄語ナリ當レ知是人ハ死シテ入二
地
（四丁裏）
01 獄ニ一如ナラン三人ノ自処處カ於己カ舎宅一ニ文殊師利如来ハ真実ニ是無
為ノ
02 法ナリ不レ應三復言二是有為ト一也〈乃至〉尒時文殊師利法王子
讃ニ
03 純陀一言善哉ゝゝ善男子汝今已作長壽ノ因縁一能ク知ニ
04 如来ハ是レ常住ノ法ナリ不変異ノ法ナリ無爲之法ナリト〈乃至〉我ト
之与レ汝倶
05 亦當ニ覆二如来有為一〈云ゝ〉問如キハレ是ノ皆説ナリ二理法身佛無
為常
06 住ト一非ニ智法身一ニハ答既ニ上文ニ云降二煩悩魔陰魔天魔死魔ヲ一
07 是故如来ヲ名二三界尊一ト如二彼ノ力士一人當ルカレ千以ニ是因縁一
08 成二就シ具三足ス種ゝ無量ノ真實ノ功徳ヲ一故稱シ上ル二如来應正遍知ト一
09 文殊師利汝今不レ應下憶想分別シテ以ニ如来法ヲ一同中於諸行上ニ
10 〈云ゝ〉何言ハン三唯理ナリ非ニ智法身一ニ加ヘ之憍陳品ニ云捨無常色
獲
（五丁表）
01 得常色受想行識亦復如是〈云ゝ〉如是誠文不レ可ニ具ニ引一
02 問若シ言ハヽ二佛智ハ无為常住ト一者違スベシ三大品経ノ第六巻ノ問答品ニ
03 云ニ十八不共法及一切智是名有為法ト一何カ會セン答彼ハ對シテ
04 法身真如空ノ偏ニ一報佛ノ十力十八不共等ハ是有法カ故ニ言ニ
05 有為ト一非ニ生滅ノ有為一ニハ問既云ヘルヲ二何等有為法若法ノ生シ住シ滅
スル
06 欲界色界无色界乃至十八不共一切智是名有為
07 法ト一論ニ釋シテ云有為法ニ畧説ニ三相一所謂生住滅三界繋及
08 四念處乃至十八不共法ハ雖レ爲ト二無為法一以ニ作法ナルヲ一故是ヲ
09 為ニ有為法一〈云ゝ〉何ッ言レフヤ非ニスト生滅ノ有為一答其ノ生住滅
等トイハ者據テ
10 三界等ノ法ニ一言レ之ヲ非下正ク據テ二一切智一説上ニハ問若尒ハ何論ニ云ヤ下

（五丁裏）

01 八不共等雖レ為ニ無為法一以ニ作法一ナルヲ故是為中スト有為ノ法上ト答以ニ

02 從レ因生スル義一為ニ有為ノ法一ト問若從因生ノ故ニ為ニストイ有為一ト者何ソ云ニヤ

03 非生滅有為一トハ答彼ハ謂レナリ非レト如ニ二ハ三界繫等ノ法ノ生滅ノ有為一ノ非

04 レ謂レニハ無下ト從ニ六度萬行ノ因一生スル義上問若許ハ從レ因生一スト何ソ言レヤ非ニト生

05 滅ノ有為一ニ答論ニ既ニ云下十八不共ヲハ雖レ為ニ無為一以ニテ作法一ナルヲ故有

06 為法一ナリト言作法故ト者謂從レ因生スルカ故ナリ言レイ為ニ無為一者謂一證

07 以後ハ更不レル也滅若シ尒ハ仏智ハ雖ニ從レ因生スルカ故有為一ナリト一得テ不レ失

08 故是无為ナリ故云レ非ニ生滅ノ有為一ニハ問若シ從因生ノ故ニ有為トイハヽ者

09 何玄ニ云三ヤ有法故名ニト有為一ト答生ハ者是有ノ義ナリ故不レ違問尒ハ

10 何ソ云レヤ非ニ生滅ノ有為一ニ答彼ハ謂レナリ非レト如ニ二餘法ノ生一ノ故亦不レ違問

（六丁表）

01 若尒ハ般若経ノ何ノ處ニ云ニヤ佛智ハ無為常住一ト答法尚品ニ佛云

02 諸佛ノ色身ニハ有ニ去来一諸佛法身ニハ无ニ去来一〈云ヽ〉有去来ハ是應

03 佛无去来ハ是法佛報佛ナリ又此経ノ處々皆云十地行満

04 得无上菩提一〈云ヽ〉云何十地行満シテ還テ得ン无常ノ身一ヲ即問若

05 尒ハ無垢稱経文ヲハ何カ會反問其文如何反答彼経第五

06 巻菩薩行品云言ニ有盡一者即是有為生滅法ナリ言ニ無盡一者即是

07 無為無生滅法ナリ菩薩不レ應レ盡ニ其有為一ヲ亦復不レ應レ住ニ於

08 無為一〈乃至〉佛智六通善ク円満スルカ故不レ盡ニ有為一〈云ヽ〉此何會ン正

09 答菩薩ハ以ニ利生大一ナルヲ故受ニカ生ヲ六道四生一ニ故不レ盡ニ有為一ヲモ不レ住ニ

10 无為一ニモ言也非レ謂下實ニハ不レ盡ニ有為一不上レ住ニセ无為ニモ於レモ佛亦尒ナリ

（六丁裏）

01 問最勝王経ニ既ニ云ニ如是三身以有義故説於無常一ト智

02 法身ノ佛豈非无常一ニ耶答雖三惣シテ表ニト如是三身一ト无常之義ハ

03 唯シ在二一身一不レ通二法身一ニハ問若尒ハ疏ニ云或ハ可ヘシ如々智ヲ合
名
04 法身一四智ハ无常ナリ故惣シテ標云或説無常一下ニハ約二如々一ニ但云
二
05 是常ナリ非ニト是行法ニ或ハ約レ非ニ煩悩為之行法ニ云ニ非行法一ト答
06 此ハ為レ成二シカ本宗ノ義ヲ一假説ス非ニ経ノ正義一ニハ問尒ハ何ナル説ヲカ為
経ノ正意一
07 答初ノ説ニ云二フハ以有義故而説於常一ト通ニ三身一説ニハ无常一ト不レ通ニ
08 法身一ニハ下ニ云二フハ非行法故是根本故但説為常一ト是経ノ正意ナリ
09 問何以知三ルヤ初ノ説ハ為ニ経ノ正意一ト答経ニ既ニ云唯有如々如々
10 智是名法身一ト前ノ二種ノ身ハ是假名ノ有ナリ此第三ノ身ハ是真實ノ
（七丁表）
01 有ナリ為ニ前ノ二身一而作二タリ根本一何以ノ故ニ離法如々一ヲ離二テハ无分
別
02 智一一切諸佛无レ有ニ別法一一切諸佛ハ智慧具足シ一切煩
03 悩究竟シテ滅盡シ得二タマヘリ清浄ノ佛地一〈乃至〉二身ハ假名ニシテ不
レ實ニ念々生
04 滅シテ不ニ定住一故數々出現以ニ不定一故法身ハ不レ尒〈云ヒ〉
又説ニ
05 應化二身ノ常無常ノ義ヲ一已テ云法身者非是行法一ニ无レ有二ルヿ異
06 相一是根本故猶如虚空一是故説レ常〈云ヒ〉都テ无シ三経文ニ説ク二
智
07 法身無常一ト故ニ初ノ説ハ経ノ正意也問別々ノ意別ナリ雖三初ノ出躰
08 門ニハ理智ヲ合シテ名ト二法身一而ニ常无常門ノ法身ハ唯理法身ナリ答
既ニ
09 云ニ猶如虚空一是故説レ常善男子離二テハ无分別智一更ニ无勝タル
10 智一離二テハ法如々一ヲ无ニ勝タル境界一是ノ法如々ト是ノ恵如々ト是ノ二
種ノ
（七丁裏）
01 如々ト如々智トハ不レ一ニ不レ異ニ是故法身ハ恵清浄カ故滅清浄カ
02 故是ノ二清浄ナリ是故ニ法身ハ具足清浄〈云ヒ〉何ソ云ニハン唯理ソト一
問若
03 理智ノ法身並ニ常ハヽ者何第三巻ノ滅業障品ニ云法身ハ常住ナレ圧
04 不レ堕二常見一ニ雖二復断滅一ストモ亦非二ストモ云断見一既ニ云雖復断滅一豈ニ
非ニ
05 智法身一ニ哉答此ハ令三ルナリ雙テ離二レ常無常ノ執一ヲ非三智法身ヲ而モ説二ニハ
无
06 常一ト即沼ノ疏ニ云離二ルニ常非常ノ見一ヲ雖レ断ナリトモ非二ルヿハ断見一ニ者境真
實ノ故ニ
07 能縁非レ偏ニ或ハ滅障ヲ名レ滅ト證二セルヲ以此ノ滅性一ヲ常ナレ圧非二ス常見一ニ

能レ令ニレ染ヲシテ

08 断セ一非ニ断見一等〈云々〉又約シテ二對治門一ニ説ニハ二无常ト一不レ墮ニ断見ニ一得

09 不失ノ故説ケハ二常住ト一不レ墮ニ常見一ニ故次経文云能ク破シテ衆生ノ種

10 々ノ異見ヲ一能ク生ス二衆生ノ種々ノ真見ヲ一〈云々〉問勝鬘経之道諦無

（八丁表）

01 常滅諦常住之文何會経正文云此四聖諦三諦ハ無

02 常一ハ是常〈云々〉答此ハ約因位ノ道諦ニ一説ナリ无常非ニ佛果ノ智ニハ一故

03 寶屈下末云三是無常ト者謂苦集道也此之三諦ハ四

04 義ノ故ニ无常ナリ一ニハ相各異故二ニハ因縁ヨリ生故三ニハ本無今有ノ故

05 四ニハ已有還无ノ故ナリ滅諦ハ翻セリ此ノ四ニ一故名為レ常ト然若シ通シテ就レ理

06 論ハレ之則四諦同ク入ニ真如ニ一故悉名為レ常ト此是差別カ无差

07 別ノ義ナリ若シ无差別カ〻〻ナラハ者宜レ開ニ四句一一ニハ苦集二諦ハ但是

08 無常ナリ二滅諦ハ但是常三ニハ道亦常无常ナリ若是シ四諦ノ中ノ道

09 諦ハ此ハ是レ因道ナリ故ニ名无常ト一若シ是佛果之道ナラハ稱シテレ之爲レ常泯

10 上ノ三門一皈スル事ハ二乎一相ニ一言妄慮絶セルヲ以不レ可レ説ニ常トモ无常トモ一也〈云々〉問

（八丁裏）

01 四諦ノ中ノ道諦ヲ為レ因ト者大小乗ノ中ニハ何ソ答寶屈下本云莫ク

02 レ問ニ大小乗ヲ一四諦ノ中ノ道ヲハ名テ為レ因ト則是无常ナリ故云集諦ヲ為

03 レ因苦諦ヲ為レ果道諦ヲ為レ因滅諦ヲ為レ果无上菩提ヲハ謂ニ果道ト一

04 則是常住ナリ〈云々〉問若四諦ノ中ノ道諦是因道カ故名ト二イハヽ无常ト一者

05 佛果之智ヲハ於ニ四諦中ニ一何レ諦ニカ攝耶答滅諦ノ攝ナリ問何處ニカ尒カ

06 説クヤ答法花玄第八ニ云十信乃至等覺地ヲ名為ニ道諦ト一如

07 来地一依寂滅涅槃ヲハ名ニ滅諦一也〈云々〉問若滅諦攝ハヽ者何

08 故寶屈ノ下本巻ニ出ニ四諦躰一云二種生死ノ果ヲ為ニ苦諦躰一一

09 切煩悩漏无漏ノ業ヲ為ニ集諦躰一五住ノ滅无ヲ為滅諦ノ躰一常

10 无常戒定慧ヲ為ニ道諦ノ躰一〈已上〉言ニ道諦无常ト一者據ニ因位ノ道

（九丁表）

01 諦一説者因位ノ滅諦ハ无常ナリヤ答據レハ同シ因位ニ智ヲコソ云生滅スト一ハ
理ヲハ不
02 レ云ニ生滅トハ一故滅諦ハ非ニ无常一問何ソ智ヲハ云ニ生滅一理ヲハ不レ云
ニ生滅トハ一
03 答因位智ハ有為ノ法ニシテ念ヒ生滅ス理ハ无為ノ法カ故不ニ生滅一問
04 若尒ハ因位ノ智ト与ニ佛果ノ智一若別躰ナリヤ耶若同躰ナリヤ耶答不
別
05 躰ナラ一問何故尒ルヤ答因智ノ明了ナルヲ云ニ佛果ノ智一ト故不ニ別体ナラ一
問若シ
06 不ニ別躰ニ一如何カ因智ハ无常果智ハ常住ナル耶答章第四云因
07 位ハ未タルハレ見ニ佛性ヲ一從ヘテレ因是无常ナリ果位ハ已ニ見ルヿ佛性ヲ一如
ナルカレ境故ニ常
08 住ナリ〈云ヒ〉問若シ見ニ佛性ヲ一而為レ常者ハヽ本ヨリ未レ見時ニハ應
ニ是无常ナル一若
09 本ヨリ无常ナラハ後ニモ亦應レ尒答此ハ純陀ノ難ナリ佛答ニ此難一云本
有今
10 无本无今有三世ニ有ナル法无レ有ニ是處一〈云ヒ〉〈第九巻菩薩
品之文也〉問此偈ノ
（九丁裏）
01 意如何答此有ニ数師ノ釈一然今意出ニ二義一問二義者何
02 答一ニハ就佛ノ二智一ニ二ハ就ニ迷悟得失一問就佛ノ二智一ニ釋方何ソ
03 余モ亦尒答就テイハヽ二智一ニ實カ之方便ヒヒカ之実无三世カ之三
04 世ヒヒカ之无三世ノ義ナリ實カ之方便ハ此无三世カ之三世ナリ方
05 便カ之實ハ三世カ之无三世ナリ无三世カ之三世ナリ豈ニ是三世ナランヤ
三
06 世カ无三世ナリ豈是无三世ナランヤ非ニ三世一ニモ非ニ无三世一ニモ所ー以ヘニ
為スレ常ト
07 既ニ非ニ三世一ニモ非ニ无三世一ニモ豈ニ得ン作シテ二三世ヲ一難シテ言ヿヲ中佛ハ是
无常ナリ上ト耶
08 約ニ迷悟得失一ニ迷ノ故ニハ本ヨリ有ニ煩悩一悟ノ故ニハ今无ニ煩悩一迷ノ
故ニハ本
09 无ニ般若一悟ノ故ニハ今有ニ般若一此ハ只約ニ迷悟一ニ論スルナリ有无ヲ一既
ニ約ニ迷
10 悟一ニ論ス有無ヲ一此ノ有无ハ不ス定メテ有无一ニ有无既ニ不ニレハ定メテ有無一ニ
无ハ則
（十丁表）
01 是有カ之无ナリ有ハ即是无カ之有ナリ有カ无ナレハ不レ无无カ有ナレハ不レ
有ニ不レハ有ニ不ス
02 レ无ニ非ス今ニモ非レ本ニモ乃至未ニ曽ヨリ本一ニ未ニ曽ヨリ始一ニ未ニ曽ヨリ見一ニ
未ニ曽ヨリ不一レ見

故ニ非ニ三世ノ攝一所以ヘニ常也　問佛地論唯識論莊嚴論等ニ
皆説ニ自受用身ハ生滅无常一ナリト何云ヤ常住一ト反ー問其ノ文如何
反ー答佛地論第三ニ云是故如来ノ有為ノ功徳ハ從レ因生故
雖ニ念念ニ滅一ストシテ而无ニ断盡一スルコト由テ佛ノ功徳ハ无盡究竟一ナルニ是故
成ニ就ス
最清浄覺一〈云ヒ〉〈此論ハ自他二種ノ受用ヲ合シテ爲ニ受用一〉
又第七云如是三身之
中ニ受用變化ハ既有ニ生滅一云何カ経ニ説諸佛身常一ナリト答由ニ二一
身ノ所依ノ理法身常一ナルニ故或経ノ中ニ説三身佛常〈乃至〉受用
變化ハ雖レ有ニ生滅一由カ恒ニ受スルコト用種々ノ法楽ヲ无キニ休廢上故ニ
於ニ十
（十丁裏）
方界一ニ數數現スルコト化ヲ无カ断絶一故ニ如ニ常ニ受一トレ云カ樂如ニ常ニ施一トレ云カ
食故ニ説テ
名レ常ト〈云ヒ〉唯識論第十云清浄法身无生滅ニシテ性无ニ變
易一
故説テ為レ常ト四智心品ハ所依常カ故无断盡一故ニ亦説テ為レ常
非ニ自性ノ常一ニハ從因生故生ハ者皈レ滅ニ一向記ノ故不レ見ニ色心ノ
非ヲハ无常一ニ故〈云ヒ〉莊嚴論云常有ニ三種一ニハ本性常謂ク
自性
身ナリ此身ハ本来性常住故ニニハ不断常謂受用身ナリ恒ニ受ニ法
樂一无カ間断一故三ニハ相續常謂ク変化身没シ已テ復現化无盡カ
故如レ是法身ハ雖レ離ニ一切ノ分別戯論一而无生滅故説テ名
常ト一身ハ雖レ有ニ念念生滅一而依ニ常ノ身无ニ間断一故ニ恒相續
故ニ説テ名為レ常无漏ノ種子修習シ増長スルニ所生起一故生者皆
（十一丁表）
滅一向記故色心ハ皆見是無常一ナリト故色心常住云フ曽不レ見
故〈云ヒ〉正ー答是皆權教ノ分齊ニシテ非ニ實教ノ意一ニハ問何故云
ニ權教ノ
分齊ト答其論等ニハ皆説ケリ佛智ハ從リ有為无漏ノ智種一生スト其ノ
智ノ
種子ハ三乘教ノ分齊ニシテ非ニ一乘教ノ意一ニハ問佛智ヲ為ニ常住一ト者
違ス
大品経ニ云フニ有為一ト答其ノ文ハ如何ソ問第六巻ノ句義品ニ云何
等ヲカ為スルヤ二有為ノ法一ト若シ法ノ生シ住シ滅スル欲界色界无色界乃至
十
八不共法及一切智是ヲ名ニ有為法一〈云ヒ〉答彼ハ約ニ佛智ノ
從
因生ノ義ニ稱ニ有為一ト非ニ滅壞カ故ニ稱ニハ有為一問既ニ問シテ何等ヲカ
為スト有

09 為法ト答テ云ヘリ若法カ生住滅等ト何ソ云ヤ非スト滅壊ノ故ニ稱ニ有為ト一
答
10 彼ハ以ニ惣相ヲ一説ナリ二有為ノ法相ヲ一非レ謂ニハ三佛智ニ具ニ有ト三相一問
凡ソ有
（十一丁裏）
01 為法ハ具トイフ三相ヲ一之道理決定セリ何ソ云フヤ二佛智ノ有為ニハ不ト一レ具
ニ滅相ヲ一
02 答佛智ハ似タルヲ二従リ因生スルニ一邉ヲ假ニ稱ス二有為ト一實ニハ是レ无為ノ法ナリ
故ニ不レ可ニ
03 例ニ一同ス餘ノ有為ニハ一問何ヲ以カ知ルヤ下假ニ名ク二有為ト一實ニハ是无為
一ナリトハ答大論ノ
04 第四十四ニ釋シテ云十八不共等ヲハ雖レ為ニ无為ノ法一以作法ルヲ故
ニ
05 是為有為法ト一〈云ヽ〉既ニ云フ十八不共等雖為无為法ト一何例
06 同餘ノ有為ニ一正文云有為ノ法ニ略シテ説ク二三相ヲ一所謂生住滅三
07 界繫及四念處乃至十八不共法ハ雖レ為ニ无為法一以ニ作
08 法一故是為ニ有為法一〈云ヽ〉問尒従レ因生故名ニ有為一者ハ、
違ニ嘉
09 祥ノ御言ハニ一反ニ一問何カ違耶反ニ一答大乘玄第五ニ云對法身真
10 空ノ邉ニ一故報佛十力四无畏等ハ是レ有法カ故名有為一〈云ヽ〉
既ニ
（十二丁表）
01 云ニ有法故名有為ト一何今云三従レ因生故名ニ有為ト一正ニ一答有ハ
02 即生ノ義カ故不ニ相違一問若尒ハ違ス次ノ文ニ云ルニ一レ非ニ生滅ノ有為ニ一
答
03 彼ハ謂ク生シテ滅スルカ二有為ヲ一故ニ不ニ相違一問般若経ノ文何ノ處ニカ明
ニ説クヤ佛
04 智ハ无為常住トハ一答論ニ既ニ釋シテ云ヘリ二雖為无為法ト一問法相ハ既ニ
依
05 荘嚴佛地唯識論等ニ一明ニ立ニ佛智ハ有為无常ナリト一无相宗ハ依ニ
06 何論文ニ一立ニ无為常住トハ一答無相宗ノ意ハ遠ク依ニ妙徳浄名ニ一近クハ
07 依ニ馬鳴菩薩ノ大乘起信論龍樹菩薩ノ大智度論等ニ一立ニ
08 无為常住ニ一問文殊立佛智无為常住ト一文如何ソ餘モ亦尒リ
09 答涅槃経ノ第二ニ文殊師利讃ニ純陀ヲ一言善哉ヽヽ善男
10 子汝今已作テ長壽因縁ニ一能知如来ハ是常住法ナリト一乃至我
（十二丁裏）
01 之与汝倶亦當覆如来有為等ニ一〈云ヽ〉起信論云復次真
02 如者依言説分別有二種義一云何為レ二一者如實空
03 以ニ能ク究竟シテ顯スヲ一實ヲ故二者如實不空以ノ有ニ自躰一具中足スルヲ
无

04 漏ノ性功徳ヲ故等〈云ㇾ〉智度論第三十七云菩薩行般若
05 波羅蜜ニ不ㇾ観ニ薩婆若ハ与ㇾ過ー去同ト一何以故過去世ハ是虚
06 妄ナリ薩婆若ハ是實法ナリ過去世ハ是生滅相ナリ薩婆若ハ非生滅
07 相一〈乃至〉未来現在世モ亦如ㇾ是〈乃至〉薩婆若ハ是十方
三
08 世ノ諸佛ノ真實ノ智慧ナリ三世ハ者従リ凡夫ノ虚妄一生ス云何カ与薩
09 婆若一合セン譬ハ如シ下真金ノ不カ中与ニト弊鐵一同セ上レ相ヲ〈云ㇾ〉依ニ如
ㇾ是等ノ文ニ立ニ
09 佛智无為常住一也
（十三丁表）
01 問報佛ノ如来ハ有為无為ノ二ノ種子ノ中ニハ従ニ何ノ種子一生スルヤ答
従
02 无為ノ種一生ス問先ッ二ノ種子ノ差別何ソ答真如佛性ヲ名ニ无為ノ
03 種一ト无漏智ノ種ヲ名ニ有為ノ種一ト問何以カ得ルヤ知下ヲ従ニ无為ノ種一
生ス上ト答
04 大般若ノ勝天王分ノ第四ニ最勝天王問テ二世尊一ニ言如来ハ因カ
05 レ何ニ得ヘルヤ二此微妙ノ功徳及大威神一ヲ世尊答テ言如来ノ法性在テ二
06 有情類ノ蘊處界ノ中一ニ従ニ无始一来タ展轉シ相續シテ煩悩ニモ不ㇾ染ラレ
本
07 性清浄ナリ一切ノ聖法ハ由ㇾ此ニ成就ス因カ是ノ性一故ニ顕ニ現ス聖者ヲ一
謂ク
08 諸佛如来ノ无漏功徳不共之法ハ従此ノ性一生ス一切ノ聖者ノ
09 戒定慧品ハ従リ此ノ性一生〈云ㇾ〉天親ノ佛性論第二ニ云二空
所
10 顕ノ真如ヲ云ニ應得因一ト由ニ此空一故得ス菩提心及加行等乃至
（十三丁裏）
01 道後ノ法身ヲ一〈云ㇾ〉問此ハ皆説ナリ理法身之因ヲ一非ㇾ説ニハ報佛
ノ種子ヲ一
02 答既ニ云ニ謂佛如来无漏功徳不共之法従此性生一ト何
03 言ヤ非ストレ説ニ報佛ノ種子ヲ一問若尓ハ真如ノ理性ハ本性不生ナリ何為
04 レ因能ク成スルヤ二佛果ヲ一答真如ハ雖ニ本性不生一ナリト具ニ用大ノ義ヲ一故
能生ニ
05 佛果ヲ一問何云ニ真如ノ用大ノ義一ト答ウ能生ニ一切ノ世間出世間ノ
06 善因果一云ニフヤ用大ノ義一ト問若无為ノ法ヲ為レシ因ト生ニ佛果一ヲ者ハ、与ト三
外
07 道ノ云ニ真諦及我等常法ヲ為一レ因ト何異ッ答恐レテ有ニフヲ此ノ疑一楞
伽
08 経ニ佛既ニ釋シ了ル何ッ為ンニ更ニ難一ヲ又諸大乗経ニ皆説リ三如来ハ具
ヘリト二四
09 徳ヲ一豈ニ其ノ我徳与ニ外道ノ我一同ナラン哉問尓ハ楞伽経ニ何カ釋下ヤ

耶答

10 楞伽ノ第二ニ大恵菩薩問二世尊一ニ言世尊ノ説ハク如来藏如何

（十四丁表）

01 同於外道ノ説レ我ニ佛自答言ク我ハ説法空一ヲ為如来藏一ト不レ同ニ

02 外道一ニハ〈云ヽ〉問佛答意何ヲ答意ノ言救論カ真諦及ヒ我ハ是レ

遍計

03 所執ノ性ナリ法空ハ是円成實性ナリ如何是同ナラント言「也問若无為

ノ

04 常法ヨリ生セ常住ノ佛果一ヲ者何故涅槃経ノ中ニ佛語二テ外道一ニ云ヘルヤ下

汝カ

05 因ハ是レ常ナリ果ハ是無常ナリ我カ因ハ無常ナリ果ハ是レ常ナリト上耶答因ニ

有二遠近一

06 約シテモ果亦一尒ナリ外道ハ唯シ有二テ常ノ因一ノミ无シ二其ノ常ノ果一佛法ハ遠

因ハ常ナリ近

07 因ハ無常ナリ遠果ハ常ナリ近果ハ无常ナリ彼ノ涅槃経ノ意ハ以二近因一

對二遠

08 果一ニ云二フ我ノ因ハ无常ナリ果ハ是常一ナリト今ハ以二テ遠因一對二遠果一ニ云三

无為ノ常

09 法生二スト常住佛果一ヲ故不二相違一問何ナル者ヲカ云二近因近果遠因

10 遠果一トハ答應得ノ因ヲ云二フ遠因一ト道後ノ法身ヲ云二遠果一ト發心ト加行

トハ

（十四丁裏）

01 近因近果ナリ問應得因ヲ望レ何ニ云二遠因一ト餘モ亦尒リ答應得因ヲハ

02 望二メテ道後ノ法身一ニ云二遠因一ト道後ノ法身ヲ望二テ應得因一ニ云二遠果一ト

発

03 心加行ヲ望二テハ應得因一ニ云近果一ト發心ヲ望二メテハ加行一ニ云二近因一ト〈不

レ可レ云下発心加

04 行ヲ望二因果一ニ云トハ中近因上〉問何處ニカ明ニ説ルヤ三真如ヲ為二トハ種

子一ト答金剛三昧

05 経ノ真性空品ニ云信此身中ノ真[5]種子等〈云ヽ〉涅槃経師子

06 吼品ニ云佛性者三菩提ノ中道種子一ナリト佛性論ノ三因品云

07 二空所顕ノ真如稱應得因一ト〈云ヽ〉因ト者種子ノ異名也瑜伽

08 論第五十二云問出世間法ハ從二何ノ種子一生スル答云出世

09 間ノ法ハ從リ真如所縁々ノ種子一生ス非二彼ノ習氣ノ積集ノ種子ノ所

10 生一ニハ〈云ヽ〉問且就瑜伽文一ニ其真如所縁々ノ種子ト者説二智

種一ヲ

（十五丁表）

01 文ナリ非レ説二ニハ理種一ヲ答説二智種一ヲ文ノ意何ヲ問縁スル二真如一ヲ智ハ以二

真如一ヲ

02 為二所縁々一ト故名真如ヲ所縁ヽノ種ト言也答尒ハ真如所縁

々之破文何ヶ問可訓真如ヲ所縁々トスル種ト答若真如ヲ所縁
ㇾノ種トイハヽ者為メハ其ノ宗ノ意ト不レ應ニ建ニ一立ス无性有情ヲ一論云フカ
一切皆
有真如所縁々故トㇾナリ問其ノ正キ文何答瑜伽ノ第五十二
云諸出世間ノ法ハ從ニ真如所縁ㇾノ種子一生ス非ニ彼ノ習氣積
集ノ種子ノ所生ニハ問曰若非習氣積集ノ種子ノ所生ニ者ハヽ何因
緣故建立シ三種般涅槃法種姓差別補特伽羅ヲ及ヒ建
立スル不般涅槃法種姓補特伽羅ヲ所以者何一切皆有カ
真如所縁々一故〈云ㇾ〉問彼ハ謂フコトナリ真如ノ所縁ㇾ一切皆
有ト非
（十五丁裏）
レ謂ニハ種一切皆有ト答為ツクル難ヲ之法ハ牒シテ釈ヲ而難スル者也既ニ
牒シテ上ノ
諸出世間法從真如所縁々種子生非彼習氣種子
所生ト云フ而モ難セルヲヤ若シ出世之法從真如所縁々一生ストイハヽ者真
如所
縁ㇾ一切皆有リ因何ソ分テルヤト中三乗ノ性及有无ノ性ヲ何ソ可キ言フ下
謂イヒナカラ
真如所縁々一切皆有ト非トレ謂フニ中種一切皆有ト又此ハ弥勒之
自ミノ問答ナリ豈ニ不シテレ得ニ答ノ意ヲ一以ニ真如ヲ一為シレ難ト哉問若尓ハ此
難ヲハ何カ
答スル耶答論ニ答曰由カ有ルニ二障无障ノ差別一故〈云ㇾ〉問此レ何ナル
謂ハレナルヤ
答
即次文ニ釋云若於通達真如所縁々ノ中ニ有ニ畢竟シテ障ノ種
子ニ者ノヲ建立シテ為ス不般涅槃法種姓補特伽羅ト一若不レ尓ラ者ヲハ
建立シテ為スル般涅槃法種姓補特伽羅ト一等〈云ㇾ〉問大意何ソ
答
（十六丁表）
此答ノ意ハ一切皆有リ真如所縁々ノ種子ハ一但約障ノ有无ニ建
立スト五性ヲ一言也問何以此文ヲ一云レ謂フコトナリトハ真如所縁々種子
一
切皆有ト答若雖真如所縁々一切皆有ト一非スト種一切皆
有ルニハ言也即可シ就種子ニ一答ス何就障ニ一答センヤ耶又論ニ明ニ云真如
種性真如種子真如集成ト一何云ニ真如ニシテ非スト一レ種ニ耶問若真
如ヲ為ニ種子一者ハヽ具スル二種子六義一耶答六義者何ソ問唯識論ノ
第二ニ云然種子ニ略シテ有ニ六種一一ニハ刹那滅謂ク躰纔ニ生レハ无
間ニ
必ス滅ス有テ二勝功力方ニ成ニ種子ヲ一此ハ遮ス常法ヲ一常ニシテ無キヲ二以轉變
一不レ可
説レ有ニ能生ノ用一故二ニハ果ト俱有ナリ三ニハ恒隨轉四ニハ性決定

五ニハ待

10 衆縁六ニハ引自果ナリ等〈云ヽ〉答六義ノ種子ハ唯シ説ニテ有為ヲ一不レ説ニ真

（十六丁裏）

如ヲハ一故ニ不レ具レ之

報佛諍私記

写本云

天文四年〈乙未〉三月上旬比勧他筆寫之移點加

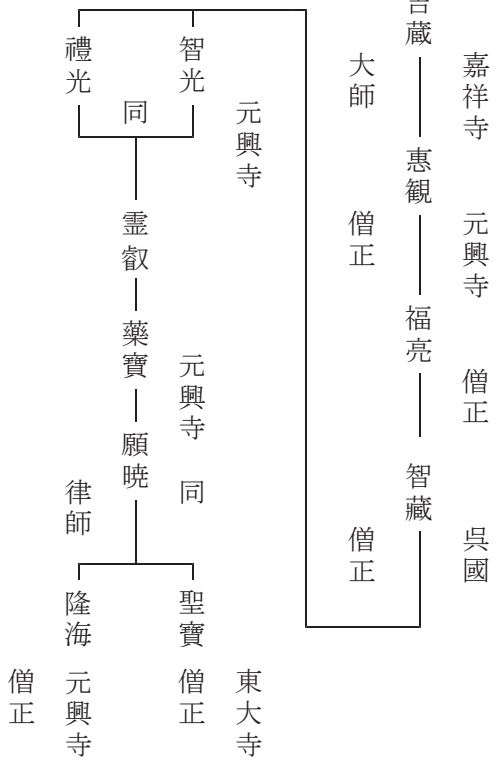
校—　南都東大寺観音院末學英訓六十

天文五年〈丙申〉五月勧學講談義之次重而加校

法印英訓

（十七丁表）

元興寺隆海律師宗圖



脚注（翻刻部分）

1　文脈上「開」は「関」の誤写か。
2　文脈上「開」は「関」の誤写か。
3　文脈上「開」は「関」の誤写か。
4　文脈上「性」は「姓」の誤写か。
5　文脈上「真」の下に「如」の脱字か。